

SS-Lecture 第4回講座

「感性工学における研究とものづくり」

平成26年11月8日(土)、信州大学繊維学部から、細谷聡先生をお招きして「感性工学における研究とものづくり」という演題で講演をいただきました。

はじめに、「科学」についての基本的な考え方についてお話をいただきました。科学とは、「適切な証拠から適切な推論過程によって推論されていること」であり、「仮説を検証する調査プロセスを含んでいる」ことであるということ、わかりやすく説明してくださいました。本校では1, 2年生の全員が、科学的探究を実施していますが、探究活動を進める際の大きな参考となりました。

本題では、感性や感性工学について、具体例を示されながら、説明をしていただきました。「感性工学」とは耳慣れない言葉ですが、「人ともものとのよりよい関係を創成すること」であるということです。その後で、研究と製品開発の事例を紹介していただきました。まず「快適」について、「快」と「適」を区別するところから始まり、着心地についての研究内容などの紹介をしていただきました。感性にまつわることは個人差が大きいことであるため、客観的な評価をどのように行うのかということについて、具体的事例を挙げながら説明していただきました。最後に、腕時計やプリンターのレバーのデザインなど、感性工学が関係した製品開発の現状についてのお話をいただきました。

